

# 特別支援教育研究論文集

—平成30年度 特別支援教育研究助成事業—

研究協力：独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

精神疾患・心身症等の児童生徒の自立活動を充実させ、  
復学支援に生かす取組  
—尺度表「自分メーター」の活用を通して—

埼玉県立けやき特別支援学校伊奈分校

校長 三原 和弘  
教諭 中里 早苗

平成31年3月

公益財団法人 みずほ教育福祉財団

## 要旨

本研究は、病弱特別支援学校(精神疾患・心身症等)に在籍する児童生徒が、前籍校へ復学し、継続して学ぶにあたり必要となる力を養うために、自立活動を充実させることを目的として行ったものである。

埼玉県立けやき特別支援学校伊奈分校は、埼玉県立精神医療センターの児童思春期病棟内に併設された病院内分校(病弱)である。精神医療センターに入院している小・中学生が対象で、児童生徒の障害の状況は、二次障害を併せ持つ発達障害圏が約75%、解離性障害、愛着障害、強迫性障害、適応障害等の神経症圏が約20%、うつ病、統合失調症等の精神病圏が約5%となっている。

入院時の症状としては、不登校、暴言・暴力、自傷、希死念慮、生活リズムの乱れ等がある。その背景は、障害への無理解からくる不適切な対応や、家庭環境・家族の問題、学校でのいじめ、対人関係のトラブル等様々である。それとともに、児童生徒自身の不安定さ、コミュニケーション能力の拙さ、対人関係を築く力の弱さ、自己肯定感の低さも顕著である。このような児童生徒が、退院し、復学するために、どのような力を身に付けたらよいのかが大きな課題となっている。

そこで、精神疾患・心身症等の児童生徒の教育上必要なニーズに関する実態把握や、病気・障害の自己理解を客観的に行うツールとして、教員と児童生徒が共有して利用できる尺度表である「自分メーター」を作成した。

尺度表「自分メーター」は、「こころ」「しゃかい」「がくしゅう」「からだ」「せいかつ」「身のまわり」の6カテゴリーと、各10項目ずつのサブカテゴリーから成り、児童生徒の強みや苦手さを、レーダー表により視覚的に提示できるものである。転入・転出の際に尺度表に取り組み、在学中の支援とその成果を復学につなげる目的で作成した。教員と児童生徒が、同じ尺度表を共有し、その差異等グラフの変化の読み取りをすることで、より課題にせまることが可能となっている。

その結果、円滑な復学だけでなく、児童生徒自身の自己理解や言語化、援助希求能力の伸長にも成果がみられた。また、尺度表を学校生活を含む実生活に活用するためのツールも作成することができた。

活用ツールは、教員向けには、児童生徒にどのような指導・支援を行ったか、カテゴリー別に本校の取組をまとめた。児童生徒向けには「自分メーター活用ブック」(自分の強みと対策を知ろう)として、「グラフ記入欄」「タイプ分け」「苦手対策」「振り返り」等の内容で構成し、学校生活で活用できるようにした。

以上、本研究は、前籍校等への復学における、合理的配慮の提供を含む教育上の配慮、個別の指導計画に使用できる尺度表の結果や自立活動を通して成長がみられた点等の情報提供により、復学が円滑に進むよう取り組んだ実践的研究である。

全国の病弱特別支援学校とも連携し、今後さらなる使用方法の工夫や改善等の可能性が広がっている。今後、小・中学校、高等学校も含む多くの学校で活用できるものと考えている。

キーワード： 精神疾患・心身症等 発達障害の二次障害 自立活動 尺度表